

浄土真宗東本願寺派野中山正山寺

ほつ寺通信

第6号

平成27年3月1日
＜発行責任者＞藤野慶正
(副住職)

春の彼岸

3月18日(彼岸入り)
3月21日(中日・春分の日)
3月24日(彼岸明け)

まもなく春の彼岸を迎えます。皆さんご存じの通り、春の彼岸は、春分の日を挟んだ7日間です。この春めいた気候の安定した時期に(日本の四季やこういった慣習は本来に良く出来たものですね)、お墓参りをされ、阿弥陀様そしてご先祖様と向き合い・語り合い、ご自身の人生を見つめ直す良いご縁となりますよう、寺族共々皆様の参詣をお待ちしております。

正山寺では、この期間内、特に混雑が予想される春分の日と土日(今年は、21日と22日)に交通整理をお願いする予定ですが、参詣の際は、呉々も事故の無いようお気を付けてお越し下さい。

副住職の仏々(ぶつぶつ)

皆さん、こんにちは。年が明けたと思つたら、もう春の彼岸の季節になります。寒さも和らぎ気分もウキウキしてくる頃でしょうか。しかし、そう浮かれてばかりはいられません。彼岸と言えば、昨年の寺報でも触れましたが、本来は六波羅密を實踐する仏道修行の期間でもあります。浄土真宗は修行が無いとはいえ、何をしてもよい訳ではなく、人として恥ずかしくない人生を歩んでゆきたいものです。さて、本年は、正山寺にとつて記念すべき開山四百年を迎えます。後述しますが、これから記念事業の工事も本格的に始まり、記念法要へ向けて着々と計画を進めて参ります。皆様にとつてより良い「お(ほつ)寺」となりますよう頑張つて行く所存です。

お焼香について

お焼香と言いますと、何となく流れて、前の人の作法を真似て、適当にやってしまうことも多いのではないのでしょうか。折角ですの、この場を借りて、浄土真宗東本願寺派(お東)の正式な作法を紹介させていただきます。

①念珠を左手で持ち、焼香卓(香炉が置いてある台)の前へ進んでから、ご本尊を瞻仰(せんごう※仰ぎ見る)し、一礼。

②右手の指先で抹香をひとつまみし、香炉へくべる。これを二回行う。※香蓋(こうごう※香の入れ物)に蓋がしてある場合は、右手で蓋を取り、香蓋の右隣に置く。続いてお焼香をする人がいなければ、蓋は閉める。

③念珠をかけて、合掌念仏礼拝。※念仏は、なるべく「なまんだぶ」や「なむあみだぶつ」と口に出して称える(称名念仏)。心で称えても良いが、口に出した方が、より一層、自然な仏恩報謝(阿弥陀様への感謝)の念仏に近づけるのではないのでしょうか。(私見)

④合掌を解いてからご本尊に一礼し、席に戻る。

■注意 ■※浄土真宗では、香をおいただく(額のあたりまで持ち上げる)ことや、香をくべる前に合掌することはしません。

※焼香の時に、キン(読経の合図として用いるもの)は叩きません。※お焼香の作法は宗派によつて異なりますが、喪家の宗派に合わせる必要はなく、自分の宗派の作法で行うことを基本とします。但し、斎場の対応者によつては、「焼香は一回で」とお願いされることもあるかも知れません。その場合は、臨機応変に周りに合わせるなど柔軟に対応したいものです。例えば、回数に関しては、当派(お東)では、二回焼香ですが、お西では一回というように、あくまで宗派の都合による取り決めであつて、どうしても二回しなければいけないものではありません。



※香炉 ※香盒
お気持ち(信心)が大切であることとを肝に銘じてください。

記念事業の進捗

数年前から進めておりました開山四百年記念事業も、残すところ8ヶ月を切りました。申込み頂いております寄進の見積総額は、現在(2月上旬)628件2480万円を計上しております。予想を超える沢山の寄進を頂くことになり、本当に有難う御座います。

※未だ回答(ハガキ)を頂いていない方もいらつしやいますが、まだ受け付けておりますので、お気持ちがありましたら、この機会に是非お願いいたします。

また、記念事業(工事・法要内容)の詳細も概ね決まり、4月頃から本格的に工事が始まります。工事中は色々のご迷惑をお掛けするかと思いますが、ご理解ご協力の程よろしく願います。

■主な工事日程(予定)■

- ・親鸞聖人立像 8～9月
- ・屋外休憩所(四阿) 7～8月
- ・休憩所 4～5月
- ・本堂外装補修 4～6月
- ・納骨堂 5～7月
- ・永代供養墓 7～8月

※工事日程は少し余裕を見ていますが、施工業者により前後する可能性があります。特に納骨堂をご利用の方は、工事中はお参り出来ませんので、お気を付け下さい。

永代供養墓について

近年、将来に不安のある方(お墓や跡取りがないなど)から、永代供養について聞かれることが多くなってきました。このご時世(核家族化、少子化、非婚化など)、こういった方々に安心してお遺骨をお預け頂ける永代供養墓が正山寺でも必要不可欠になると思われ、独自に調査しておりました。

現在、正山寺において最善と思われる永代供養墓の運用形態がまとまってきました。既存の納骨堂を活用しつつ、本堂左側面に永代供養墓を



※永代供養墓のイメージ図

建立し、正山寺が責任を持って永代供養させていただきます。になりま

詳細が決まりましたら、皆様にご案内させて頂くことになるかと思えます。何かありましたら気軽にお問い合わせ下さい。

副坊守のコラム

まだまだ先のことと思っていた記念事業も、あと半年余りに迫り、慌ただしくなってきました。

境内では、各所で工事等が入り、お参りされる皆様には、御不便をお掛けすることと致します。ご了承頂きます様、お願い致します。

働く車が大好きな息子にとつては、近くでトラックやクレーン車を見られる事に大喜びのことでしょう。2、3才のこの時期は、言葉

をスポンジのように吸収すると言われています。大地もだいた言葉が増え、会話が成立するようになってきました。親の口癖を真似る事もあり、ハツとする事もしばしば。正しい言葉遣いと態度、身の引き締まる思いを感じております。子供の記憶力に感心する一方、

ますます忘れっぽくなる自分の記憶力…。スポンジのような脳が羨ましいです。

あとがき

月日が過ぎるのは早いもので、開山四百年記念法要まであと僅かとなりました。やるべき事はまだまだ沢山ありますが、寄進を頂いている方々の期待に応えられるよう、着々と計画を進めて行く決意を新たにしています。

また、記念法要を境に住職を仰せつかることとなりますが、まだまだ未熟な身であります。皆様にお育て頂きながら、自己研鑽もして参りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

寺報「ほっ寺通信」第6号

浄土真宗東本願寺派
野中山 正山寺

住職：藤野有慶 (発行責任者)
副住職：藤野慶正
住所：〒194-0201 東京都上野区山田1-5-04
電話：042-797-1446
FAX：042-797-9233
URL：http://shousan.net
メール：info@shousan.net

合掌